

コミュニティ財団による、地域の新しい資金循環づくりと人材育成 —地域で生まれる課題やチャレンジを、市民の手で応援しあうまちへ—

指導教員 北陸大学 経済経営学部 教授 田尻慎太郎

参加学生 岡本隼・中川秀人・河端克実・本多遥大・堂川大貴・中村彪崇・森永海人

1. 活動の成果要約

- ・ フィールドツアー、インタビューによる加賀地域の強み弱みの発見
- ・ コミュニティデザインに関する文献調査
- ・ オンラインセミナー運営の技術ノウハウの獲得
- ・ 専門家を招聘したオンラインセミナーの開催
- ・ 大学外とのメールを用いたコミュニケーションスキルの獲得
- ・ SNS を活用した広報宣伝
- ・ 類似自治体と加賀市を比較した人口分析
- ・ 加賀市内町丁・字単位の人口・経済分析

2. 活動の目的

加賀市では昭和60年をピークに人口が減少しており、税収も減収する中、人材や資金を自治体に依存しない活動の重要性が高まっている。本活動では、地域の人材育成・資金循環を目指して設立された公益財団法人あくるめと連携し、財団事業を発展させることを通じたまちづくりを目的としている。そのためには、まず地域の活動に参加する人々を増やしていくことが必要になる。そこで今年度は、加賀市で何かを始めたい、仲間を増やしたい、自分たちが思い描く理想の町づくりをしたいという思いを持つ人々を対象にしたオンラインセミナーを開催することで、市内における潜在的な担い手育成に取り組むこととした。

3. 活動の内容

・ 活動の立ち上げ

8月6日	公益財団法人あくるめ飯貝誠理事による遠隔講義を受講
8月8日	・ 公益財団法人あくるめと加賀市内をフィールドツアー ・ 杉水地区に移動し、霜下順子代表理事と顔合わせ及び今後の打ち合わせ ・ セミナー開催を柱とした今後の活動内容の決定
9月1日	学生のみによるフィールドツアー、タビト學舎訪問



・ オンラインセミナーの実施

9月29日	あくるめとオンラインミーティング
10月6日	あくるめとオンラインミーティング
・ 7日	・ 学生が考えたオンラインセミナーの名称、企画案、実施方法などを打ち合わせ

	・名称を「フレキシブルシンキング in 加賀」とする ・セミナーの構成 ① あくるめ、田尻ゼミの概要紹介 ② 田尻ゼミからの研究発表 ③ ゲスト講師の講演 ④ 講師、あくるめ、教員、学生によるパネルディスカッション ・実施方法は Facebook イベントページを立ち上げ Facebook ライブで配信 ・広報宣伝として SNS でシェア、FB 広告の活用
--	--

10月12日	第1回フレキシブルシンキング in 加賀を開催
10月20日	第1回オンラインセミナー振り返り会

- ・ゲスト講師：慶應義塾大学総合政策学部 宮垣元教授
- ・講演タイトル：「民が公を担うーソーシャルセクターの過去現在未来ー」
- ・学生研究発表：「加賀プロジェクト紹介」



12月10日	第2回フレキシブルシンキング in 加賀を開催
12月24日	第2回オンラインセミナー振り返り会

- ・ゲスト講師：認定 NPO 法人マイスタイル 代表理事 竹内千寿恵氏
- ・講演タイトル：「地域プロジェクトを育む中間支援力～マイスタイルの事例より～」
- ・学生研究発表：「加賀市人口分析～グラフで見る加賀市～」



2月4日	第3回フレキシブルシンキング in 加賀を開催
------	-------------------------

- ・ゲスト講師：公益財団法人佐賀未来創造基金 理事長 山田健一郎氏
- ・講演タイトル：「コミュニティ財団とは？ー地域の新たな資金循環の仕組みー」
- ・学生研究発表：加賀市人口分析～町丁・字ごとにみた加賀市～



- データ分析手法の学習
 - BI ツールである Tableau Desktop、Tableau Prep を用いて、総務省統計局 e-Stat の国勢調査、経済センサス活動調査データの地理的分析手法を学んだ。

4. 活動の成果

<活動結果のまとめ>

- オンラインセミナーの統計

	リーチ数	エンゲージメント数	再生回数	コメント数	シェア数
第1回	—	—	—	41	—
第2回	1,214	193	682	39	4
第3回	955	227	426	61	6

※第1回は設定方法が違ったために統計データを取得できなかった

- ゼミ生研究発表

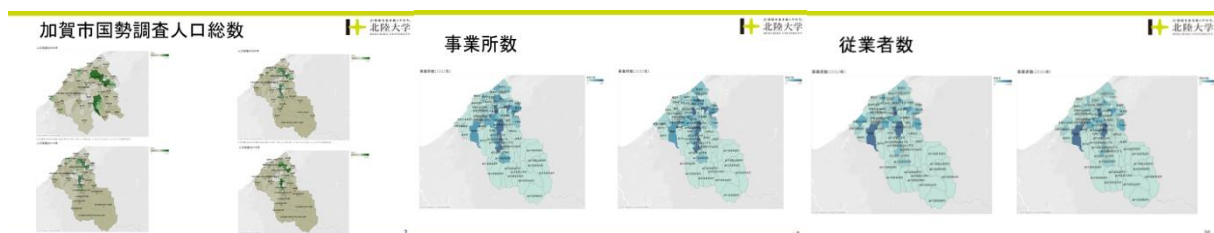
第1回研究発表では、初めに私たちの大学とゼミを紹介し、その後に加賀市のフィールドワーク（2回）において、実際に経験し感じたことや発見したこと、また、こういうものがあったら活性化につながるという考察について述べた。



第2回研究発表では、加賀市の人口分析を行った。住民基本台帳データを用いて、加賀市を3つのパターンから比較した。人口増減率を類似した4つの自治体と比較しグラフ化した。



第3回研究発表では、国勢調査（2000年～2015年）、及び経済センサス活動調査（2016年）データを使用し、加賀市歴史的風致維持向上計画の資料を参考にして、加賀市内での地区別に人口総数、事業所数、従業者数のデータ分析を行った。



＜貢献事項＞

オンラインセミナーを行うことで、加賀市民だけでなく、私たち学生の周りの人にも加賀市の課題やそれに対して行動している団体・事業があることを知ってもらえた。

- ・ 組織としての弱さ等を焦りやコンプレックスとして捉えていたが地域全体のネットワークの中でお互いを補うことや課題解決を行う上で気楽に構えることの大切さを学びました。(第1回フレキシブルシンキング in 加賀 参加者からのコメント)
- ・ NPO 法人 My style の竹内様のお話を聞いて、give&give の精神がありつつも、なぜかどこか戦略的で、バランス感覚が良いところが面白かった。(第2回フレキシブルシンキング in 加賀 参加者からのコメント)
- ・ あくるめは子育てや若者支援を限定的に行っているのに対して、佐賀未来創造基金では多くの助成事業や寄付活動など、自分のできる範囲を限定するのではなく、それらを地域全体の問題として捉え、自主的に全ての課題を拾いに行くところに心打たれました。(第3回フレキシブルシンキング in 加賀 参加者からのコメント)

＜本事業の成果＞

研究発表を通じて加賀市の資源に触れあい、その価値や維持の重要性を広く多くの人に伝えることができた。そのためには地域内の親和性が重要であることを学ぶことができた。データ分析からは人口減少や少子高齢化が課題として挙げられた。今後の北陸新幹線の延伸が経済社会にどのような影響を及ぼすかの引き続き分析していく。

フレキシブルシンキング in 加賀のオンライン講座を通して、司会、研究発表、パネリスト、配信、広告・宣伝等、オンラインセミナー運営に関する技術やノウハウを身につけることができた。その講座でしか吸収できないコミュニティデザインに関する用語や知識といった情報を学ぶことができた。

5. 次年度の計画

- ・ 引き続き、フレキシブルシンキング in 加賀シリーズのオンライン講座を継続し、新型コロナウイルスの状況次第ではあるが、今年度開催を見送った市民向けワークショップを実施する。
- ・ 加賀市内のフィールドワークについても、今年度はコロナ禍による制約からあまり行えなかったもので、分析から明らかになった特徴ある地域に積極的に足を運びたい。またアンケート、インタビューといった質的調査に取り組む予定である。

6. 活動に対する地域からの評価

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、ゼミ生とのやりとりはほぼオンラインで行われ、また当初予定していた市民ニーズ把握のためのワークショップ開催も見送ることになるなど、様々な制約のなかで試行錯誤を重ねてきた7ヶ月間でありました。そんななか、学生たちと共同で取り組んだ「フレキシブルシンキング in 加賀」では、NPO や市民活動支援に関して幅広く活躍されている方々の実体験を踏まえたお話をお伺いすることができ、あくるめ財団（以下：財団）にとって新しい知見を広げる機会になったと思っております。これらの学びを踏まえ、現在財団では中長期戦略の組み直しを実施しており、来年度以降はより多く、より様々な人たちが加賀に関わるような仕掛けを行なっていきたいと考えています。d-lab の皆様とは、オンライン講座の企画や振り返りを重ねながら、多くの学びの交換をすることができました。心より御礼申し上げます。誠にありがとうございます。(公益財団法人あくるめ 事務局 山田真名美)